



## 平成30年を顧みて

「楽しかったあ。」「やったね!」と思う一年に

舞鶴市テニス協会  
会長 江宮 文夫

舞鶴市テニス協会会員の皆様、そして、名誉会長、顧問、参与の皆様、明けましておめでとうございます。

今年の元旦はとてもよい天気でした。五老岳に上がってきました。下から見上げると真っ青な空を背景にして、スカイタワーが鮮やかにそびえ立っていました。

さて、理事長や大会運営に関わっていただいた方々の尽力により、しっかりと整理された「平成30年度 行事結果報告書」が出来上がりました。一年の足跡がぎっしりと詰まっています。じっくりご覧いただけると幸いです。

昨年の大会を通して印象に残ったことを一つ述べます。それは（昨年だけということではありませんが）準決勝、決勝戦を数十名の方が残り、観戦・応援していただいたこと、また市外にも関わらず、数名の方が四都市体育大会や京都府民総合体育大会の応援に足を運んでいただいたことです。それらは、きっとプレーする人やチームの人たちにとって励みになっていることと思います。

ここで私事で恐縮ですが、NHK・BSで放映している「グレートレース」～山岳地帯や、山野などに設定された長距離のコースを6日間ほどかけて走破する競技～を見るのが好きです。それらのレースにはトップを目指すプロランナーや、走り切ることで自信をつかみたいと願う素人など、様々な人たちが参加をしています。

過日は『大帝国の夢の跡を走れ 激走モンゴル242km』が放送されました。その中で、トップ集団の日本人選手が、アキレス腱を痛め棄権と隣り合わせの状態で、「ここで（レースの途中で）止めるわけにはいかない。応援してくれている人たちがいるから…」と、走りながら話していました。

私たちは、会員が交流し、試合を通して競技力をつけ、市民の皆さんにテニスの面白さを経験していただけるようにと、様々な活動をしています。それらを“応援してくれている人たち”とはどんな方たちなのだろう？と、見ながら少し考えていました。

ところで又、それらの活動は次の世代へと引き継いでいかなければなりません。

今年は、理事長や常務理事などの方々を中心として、協会の活動(会務)をより分担して進めていきたいと思えます。まずは大会運営です。担当していただく方には、いろいろとお世話になりますが、確認し、尋ね合いながら進めていただければと思えます。そして、会員の皆さんにもご理解とご協力をお願いします。

皆様の心の中に、テニスを通して「楽しかったあ。」「やったね!」という気持ちが、より多く湧いてくるような、そんな一年になればうれしいです。

今年もよろしく願いいたします。

平成31年1月吉日



夕日で光り輝く五老岳タワー（平成30年12月25日16時30分に女布から撮影：有本）